

テーマは「果樹の生産量（令和3年産）」

全国シェア約8割を占める「東北のりんご」

国内生産される果樹の中で、「みかん」と「りんご」は他の品目に比べ数倍の生産規模があり、令和3年産の全国生産量（収穫量）をみると、みかんは約75万トン、りんごは約66万トンとなっています。

東北では、みかんの生産はほとんどありませんが、りんごは全国1位の生産量を誇る青森県をはじめ、東北各県で生産され、全国生産量の約8割を占めています。

県別の生産量をみると、青森県の全国シェアは6割を超えており、次いで、長野県、岩手県、山形県の順となっています（図1）。

図1 果樹の品目別生産量とりんご生産量の県別シェア（全国・令和3年産）

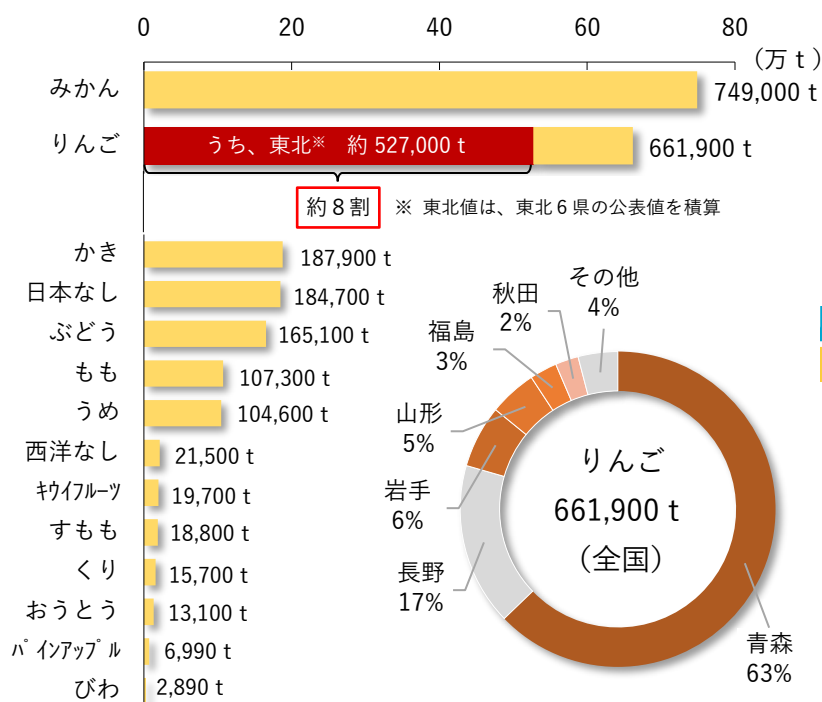
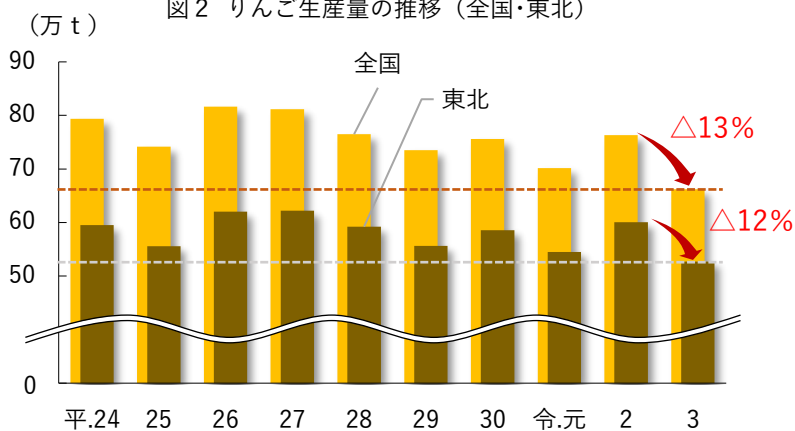


図2 りんご生産量の推移（全国・東北）





Maff Navi

東北

Vol.10 [令和4年10月]

「まふナビ東北」では、農林水産省が実施している統計調査結果から、「東北地域」にクローズアップした情報をお届けします。

[発行]
農林水産省 東北農政局統計部

りんごの生産動向

ここ10年間の生産動向をみると、その年の気象条件による作柄等から生産量に差があり、全国生産量は70～80万トン程度で推移していますが、令和3年産は、66万1,900トンで、前年産と比べ10万1,400t（13%）減少し、東北においても約7万4,000t（12%）の減少となっており、全国、東北ともに、ここ10年で最も少ない年でした（図2）。

これは、青森県において、生育期間中の少雨により果実肥大が抑制されたことや、長野県において、4月の凍霜害により着果数が減少したことなどが影響しました。

これから、りんごの収穫最盛期を迎えますが、令和4年産りんごの生産量等については、今後調査を行い、データを公表していきます。

農林水産省では、作物の収穫量等を把握するため、「作物統計調査」を実施しており、果樹は14品目※を調査対象としています。

また、本調査は、6年周期で全国調査を実施し、その中間年は主産県調査（全国の作付総面積の80パーセントを占めるまでの上位都道府県などを対象。令和3年は主産県調査年）を実施して、全国値を推定しています。

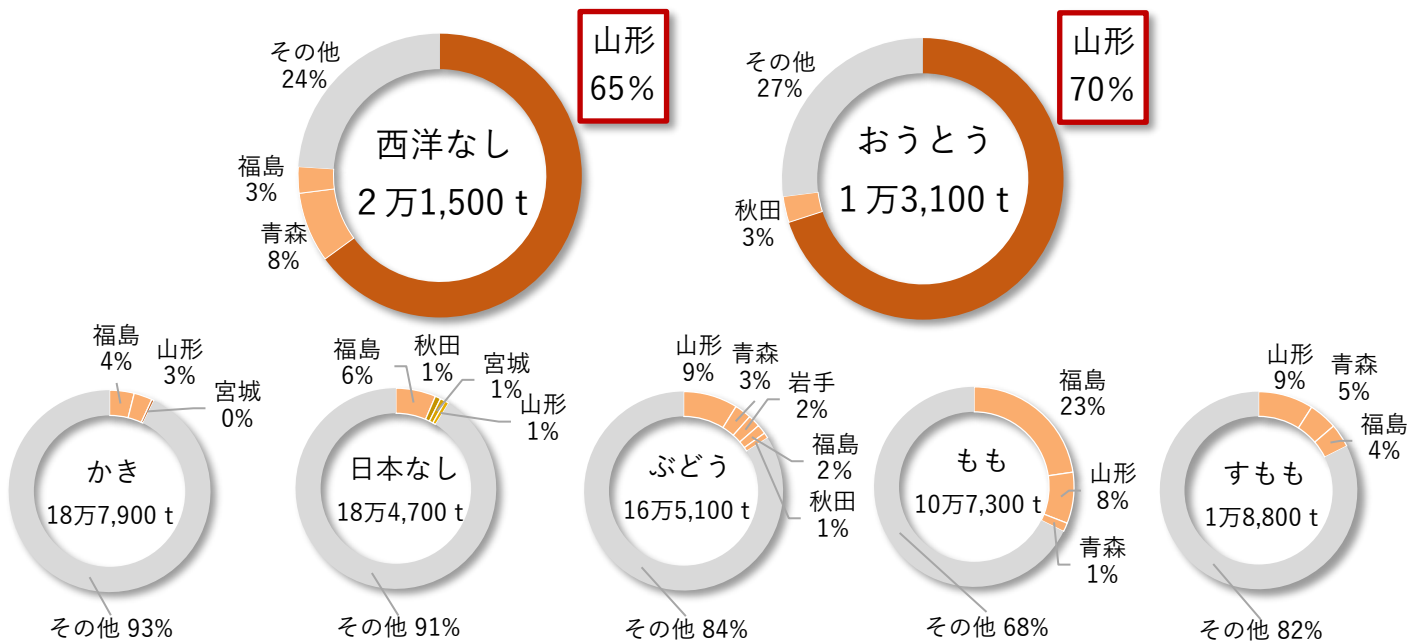
※14品目：みかん、りんご、日本なし、西洋なし、かき、びわ、もも、すもも、おうとう、うめ、ぶどう、くり、パインアップル、キウイフルーツ

りんご以外でも全国シェア 6～7 割の品目も

東北各県のりんご以外の主な果樹の生産量をみると、山形県の「西洋なし」と「おうとう」が全国の 6 割以上を占めており、圧倒的なシェアを誇っています（図 3）。

また、東北管内では、多くの品目が主産県調査に該当しており、多様な品目を生産していることがうかがえます。

図 3 主な果樹の生産量の県別シェア（全国・令和 3 年産）



注：令和 3 年産は主産県調査のため、品目別に調査対象となった東北管内の県を表章している。また、表示単位未満を四捨五入しているため、内訳の計が 100% にならない場合がある。

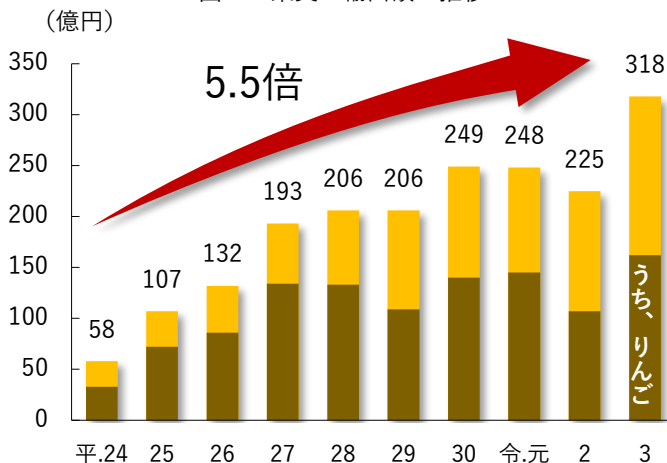
果実の輸出は？

近年、日本の果実の輸出額は増加傾向にあり、令和 3 年は 318 億円と、ここ 10 年で 5.5 倍となっています（図 4）。

また、令和 3 年の輸出額の品目別シェアをみると、りんごが最も多く 51%（162 億円）、次いでぶどうは 15%（46 億円）、いちごは 13%（41 億円）の順になっています。

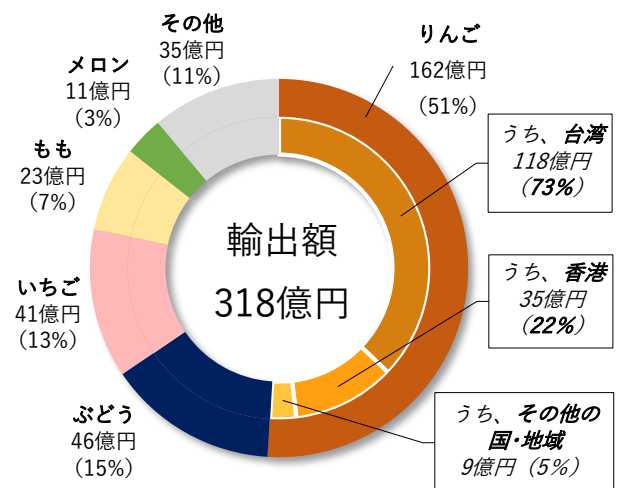
りんごの輸出額が最も大きい輸出先は台湾で 118 億円、次いで香港が 35 億円となっています（図 5）。

図 4 果実の輸出額の推移



資料：農林水産省「農林水産物輸出入概況」

図 5 果実の品目別輸出額とシェア（令和 3 年）



-お問合せ- 農林水産省東北農政局統計部統計企画課 電話：022-745-9378

作物統計（作況調査（果樹））の品目別生産量（収穫量）の詳細な情報（公表資料）はこちらからご覧いただけます。

農林水産省ホームページ … https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kazyu/

注：今回ご紹介した作物統計調査（令和 3 年産・果樹）のデータは概数値であり、確定した詳細な数値は今後、農林水産省ホームページで公開します。

